

洋とに区分する。この区分は船舶安全法に規定する船舶の航行区域による区別である。

近海区域は東経175°、西は同94°、南は南緯11°、北は北緯63°の線にかざ

られた区域で、この区域内の航路が近海航路である。戦前はつぎのようなものであったが、現在では多少違っている。

横浜—南洋、神戸—マニラ（フィリピン）、門司—敦賀—浦塩（ソヴエト領沿海州）、門司—大連（南満州）、門司—長崎—天津（華北）、長崎—上海（華中）、門司—基隆（台湾）、門司—香港、九州—釜山（南朝鮮）。→航路。



参考文献 運輸省編 航路選定。（今留光国）

きんきにっぽんてつどう 近畿日本鉄道

1 事業者の概要

名称 近畿日本鉄道株式会社、本社 大阪市天王寺区上本町、資本金 234,000 万円、おもな事業 地方鉄道、旅客自動車運送（一般乗合 174 km、一般貸切）、百貨店、劇場、遊園地、運動場、土地建物の売買賃貸業。鉄道従業員 9,218 人、保有車両機

関車 電気 21、内燃 2、電動客車 433、客車 149、鋼索車 6、電動貨車 21、貨車 271 両。

沿革 明治 43・9・16 奈良軌道株式会社設立、同年 10・15 大阪電気軌道株式会社と改称、大正 3 年大阪線布施・桜井間および奈良線大阪・奈良間を創業、以来逐次延長開業す。大正 10・1 天理軽便鉄道から天理線法隆寺・天理間をゆずり受け（法隆寺・平端間は昭和 27 年営業廃止）同 11・1 生駒鋼索鉄道（鳥居前・宝山寺間）を、昭和 3・1 長谷鉄道を、同 4・3 伊賀電気鉄道（伊賀線）を、同年 8 月吉野鉄道（吉野線）の諸会社をそれぞれ合併す。（伊賀線は後に昭和 6・9 参宮急行電鉄へ譲渡）、同 16・3・15 参宮急行電鉄を合併して新たに山田線、名古屋線、伊賀線、養老線、神戸線等の諸路線を加え、関西急行鉄道株式会社と商号変更、さらに同 18・2 大阪鉄道株式会社を合併し、南大阪線、長野線、道明寺線等の路線を承継した。

昭和 19・4 信貴山急行電鉄（信貴線）および南和電鉄（御所線）を、同年 6・1 南海鉄道を合併して近畿日本鉄道株式会社を設立、同 22・6 南海鉄道から承継の全事業路線を、新設の南海電気鉄道株式会社へ譲渡す。現在営業路線は大阪府、奈良、三重、岐阜、愛知の 5 府県にわたり総延長 470.2 km におよんでいる。

2 運輸上の特長

本鉄道は大阪、名古屋の 2 大都市を結ぶ大阪線および名古屋線を幹線とし、5 府県下の主要都市を直結しており、産業路線としての使命をもつとともに沿線に幾多の観光、史跡、重要文化財等に恵まれており、観光路線としての性格をもっている。

3 沿線の名勝、観光地

